

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。

勤息文庫に就て

學徳一世に高く、教界の重鎮であつた勸學勤息義城老師が、玉座を移し給ふてから、早や一週年の忌辰を迎ふることになつた。老師が篤學者であつたことは言ふまでもないが、老師が終生専心に蒐集し給ふた珍本古籍、さては沈思默考し、比較研究して手澤された山なす典籍、即ち老師の魂であつた群籍は、老師の形見として、其の寺大恩寺に残された。所が今回、勤息老師の法嗣、勤息義門師は、此の權威ある珍籍が、或は空しく散逸して、老師の本意を損はんことを恐れ、かつは學界に貢獻する所あらんが爲めに、少からざる費用を投じて之を整頓し、此を勤息文庫と名け、佛教專門學校の圖書館に委託し、一般讀者に便益あらしめんとせられたのは、實に近來の美舉であると言はねばならぬ。今や佛教專門學校は、特に新築に着手せんとし、亦新たに圖書館の經營せられんとする折柄であれば此の新しき圖書館は、先づ第一に此の權威ある文庫に依て、美しく飾らるゝことであらふ。吾等は喜

んで前途に望あり、榮えあり、光ある日を待つであらふ。勤息文庫の事に就ては、去年の十二月九日の午後、佛教専門學校主催の下に、勤息上人追悼會を知恩院で勤めた際、大分話が進行し、勤息文庫を造ること決議して、既に多少の寄附金も集つたのである。序手に當日勤息文庫の設立費に、寄附して下さつた、人の芳名と、其の金額とを茲に記して置きたいと思ふ。

金參圓 石井教道、金參圓 岩井眞亮、金參圓 石橋誠道、金參圓 梅村舜道、金參圓 當麻信隨
金參圓 江藤激英、金參圓 石原恩純、金參圓 横井孝中、金參圓 濱田義夫、金參圓 前田聽瑞
金參圓 當麻定信、金參圓 稻岡孝教、金參圓 小林義道、
金貳圓 野田諦圓、金貳圓 烏賀陽問順、金貳圓 勝田良融、金貳圓 宮本全雄、金貳圓 吉水佐
忠、金貳圓 別所照道、

金五拾錢 佐々木堯海

合計金五拾壹圓五拾錢

尚ほ勤息文庫に就ての詳細は、後に委く記すこととして、今はたゞ其の經過の概要のみを報告する
ことに止めておく。

(石橋誠道記)